

arflexとISETAN MEN'Sがコラボレーション

地球とクリエイションの新たな関係づくりを目指した キュレーション型ポップアップ「Re:marche」に参加



アルフレックスジャパンは三越伊勢丹とコラボレーションし、2021年9月22日(水)～10月5日(火)まで新宿伊勢丹メンズ館一階プロモーションスペースにて行われる、地球とクリエイションの新たな関係づくりを目指したキュレーション型ポップアップ「Re:marche」(リ:マルシェ)に参加します。アルフレックスの家具製造過程でどうしても余ってしまう端材や端切れを使用し、バッグブランドPORTERと2組のアーティスト谷敷 謙、Kota Kawaiとコラボレーションした製品や限定アート作品が発表されます。このコラボレーションは三越伊勢丹が掲げる「think good」という合言葉に4者が共感し実現しました。

think good:

三越伊勢丹グループは“人と時代をつなぐ”企業をめざし、社会に対する企業の責任として社会の様々な課題と向きあい、企業活動を通じてその解決に貢献することで、人々の豊かな未来と、持続可能な社会の実現に向け役割を果たしていくということを、サステナビリティ推進の基本方針として掲げています。そして、想像力を働かせ、真摯に考えることから始めるという意味を込め、「think good」という合言葉のもと、サステナビリティ活動に取り組んでいます。

【イベント情報】

「Re:marche」

開催期間:2021年9月22日(水)～10月5日(火) 10:00-20:00 ※9月24日(金)は休業

開催場所:伊勢丹新宿店 メンズ館1F プロモーション

【お問い合わせ】

伊勢丹新宿店 メンズ館1階 プロモーション

電話03-3352-1111 大代表

「Re:marche」コラボレーション 1 PORTER × arflex



PORTER / ポーター

1935年創業のバッグメーカー“吉田カバン”のメインブランドとして1962年に発足。メイド・イン・ジャパンであることや素材やパーツ、縫製などにこだわり、使う程に馴染み長く愛用していただける鞆作りを目指している。ブランド名にはホテルなどでお客様の鞆を預かるポーターという職業が常に鞆に触れ、鞆の良さを知る者と考え起用。

PORTERから家具とカバンの融合を目指した異素材のミックス感を楽しめるコラボレーションプロダクトが、このポップアップにて先行発売されます。ひとつのカバンの生地すべてをarflexの生地で仕上げるのではなく、PORTERならではの生地と掛け合わせることで、両社の「らしさ」が詰まった数量限定のスペシャルコレクションです。普段PORTERで使用されるカバンの生地に比べて、arflexの家具に使用される生地は非常に厚みがあり、長年の使用に対応する耐久性を持つ一方、風合いを高めるため、ざっくりと織り上げられています。また1枚の生地に、複数の素材が混ざっていて、柄の違いはもちろん、組成の違いから異なった表情が生まれます。厚みがありながら目が粗い部分もある生地を、どのような縫い方で、裏地はどのようなものが適しているのかを考え抜き、同時に軽さへのこだわりも忘れずに製作されたPORTERの職人たちの技術も感じていただきたい一品が仕上がりました。



(左) WALLET 17,600円

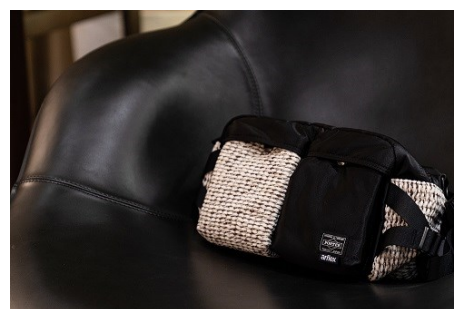
(右) SHOPPING BAG 14,300円



2WAY TOTE BAG (S) 42,900円



2WAY TOTE BAG (L) 61,600円



WAIST BAG 31,900円

(全て税込価格)

[＜PORTER × arflex＞三越伊勢丹オンラインサイト商品一覧](#)

※9月22日(水)午前10時頃より発売開始

「Re:marche」コラボレーション 2 谷敷 謙 × arflex



谷敷 謙 / Ken Yashiki

1983年生まれ 東京都出身。杉野服飾大学在学中にJFW JAPAN CREATION TEXTILE CONTEST新人賞を受賞。卒業後も国内アパレルメーカーに勤務する傍ら美術家として活動する。2019年に活動を本格化させ、2020年FACE 2020 損保ジャパン興亜美術賞 入選、2021年UNIQLO TOKYOにて作品の展示など幅広く活動を行う。「木目込み」と呼ばれる雛人形に使われる伝統的な技法を使用した作品を発表している。

谷敷 謙が制作したのは、今年50周年を迎えたarflexのソファ、MARENCOをテーマにした作品です。「生活の主役は人。家具は住み手の個性を引き立たせるための脇役であり、居心地のよい空間づくりに欠かせない“生活の道具”である」というarflexのモノづくりのコンセプトを尊重し、かつ谷敷 謙が独自に解釈し作られた作品です。作品の素材となったarflexの生地は、強度があり、制作には難度の高い素材ですが、谷敷 謙の木目込みの手作業の高い技術によって新しいアート作品へと生まれ変わりました。人物をモチーフにした作品が多い谷敷 謙と、お客様一人ひとりにとっての心豊かなライフスタイルをご提案するarflex。“人”を尊重する両者のコラボレーションは、ほっこりと寄り添うような居心地の良い作品に仕上がっています。

「Re:marche」コラボレーション 3 Kota Kawai × arflex



Kota Kawai

1998年 大阪府生まれ。服飾を学んだ後、ヴィンテージカスタムの経験を経て、資源の有限性に着目。2020年より表現活動を開始。同年11月“難事の可視化”をコンセプトとした自身初となる個展「Ethical Consumption Chair」を開催し、注目を集める。

発展や消費などの現代的背景や既存の資源を再解釈した世界再生“World Rive”を掲げ、「再生された世界」を表現している。

Kota Kawai x arflex による再生プロジェクト=「Revive arflex」リバイブ・アルフレックス。

人々の生活は生産、消費、再生産によって社会的・文化的・心理的な発展を遂げていますが、昨今、“地球の使いすぎ”に直面しているとKota Kawaiは考えました。人々は「環境に配慮してこそ休むことが可能」であり、地球と人間との共存を考えることは現代の人々に必要な観点で、廃棄という「無価値」に「価値」をもたらす事が未来“再生”への一歩であると考え、「think good」企画に賛同。今回、arflexの家具の製造時に出た端材や端切れと、倉庫で眠っていたチェアをKota Kawaiが独自の解釈を加えて再構築し、新たな価値を注ぎ込んだ限定アート作品を発表します。

arflexのサステナブルな取り組み

ECO PROJECT

アルフレックスの家具

家具は、家族の生活を支える道具であり、家族の絆を深めるものです。アルフレックスではお客様からオーダーをいただいてから、国内工場ですべてひとつひとつ丁寧に製造してお届けしています。20年30年と長くお使いいただいた後、メンテナンスを施し、親から子へと受け継いでお使いいただくケースも少なくありません。良い物を大切にしながら、長く安心してお使いいただきたい。そんな想いを込めて素材選びと、ものづくり、メンテナンスの体制を整えています。



生地・革について

アルフレックスは、1969年にイタリアから日本に渡ってきた当時から、日本国内で家具の製造をしています。家具に用いる生地や革は、毎シーズンイタリアを中心に国内外で買い付け、厳しい検査を通過し、アルフレックスの製品にマッチするものだけを選んでいきます。家具作りに必要な丸革(牛1頭分)は市場に出回る数が少なく、かつ入念なダメージチェックでさらに厳選されています。

ECO PROJECTについて

家具の張り地に用いる生地や革は、可能な限り無駄が出ないように、コンピューター制御による型取りをしています。型取りした後は、家具の張り地を作るには足りない端切れが生じてしまいます。大切な資源を無駄にしないものづくりも、企業に与えられた課題です。そこでアルフレックスでは、2013年から端切れを有効活用し、日常お使いいただける製品を制作し、チャリティーイベントへの出品やワークショップなどでの限定販売のほか、ノベルティやギフトとして活用しています。(通常非売品)

時を見つめ、時を越えて、豊かな生活を創造する

私たちアルフレックスジャパンは、お客様と社会とともにありつづける企業です。



arflex
ECO PROJECT

【プレスお問い合わせ先】株式会社アルフレックスジャパン 広報・PR担当：高下／長谷川 <press@arflex.co.jp>
東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー6F Tel.03-5468-3371 Fax.03-5468-3372
URL : www.arflex.co.jp